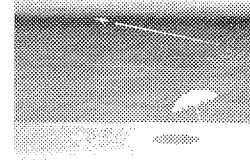


診断京都

No.79

2005年 夏号

社団法人 中小企業診断協会京都支部



● 第46回 通常総会開催される ●

支部長に玉垣 勲氏を選出

中小企業診断協会京都支部第46回通常総会が平成17年5月21日(土)午後3時45分より京都商工会議所地下会議室で開催された。総会では平成16年度事業報告ならびに収支報告が承認された後、平成17年度事業計画および平成17年度収支予算が決定された。引き続き役員改選では新支部長に玉垣勲氏を選出した他、計23名の理事と2名の監事を選出した。この後、会場をハートピア京都かくれ庵に移し懇親会を開催、高嶋京都府中小企業技術センター所長など多数の来賓の出席を賜り祝辞をいただいた。

挑戦状!!!

玉垣 勲



我々診断士は、中小企業の発展のための応援団としての存在価値が大きい。診断士はそのためあらゆる活動に参加し、果敢にチャレンジするべきだ。診断士には法的に専有ドメインはないから、それをデメリットとみるかは個人の判断だ。デメリットの中にもメリットは存在する。診断士は経営のあらゆるジャンルで活躍できる。診断士個人の力では限界がある場合は、当支部の重要課題としてグループのパワーを発揮して当たりたい。

診断士個々及び支部傘下の診断士グループは、中小企業経営のいかなる問題も中小企業経営者とそこに働く従業員さんと一緒になって考え行動する中で課題を見つけ、その課題解決に全力投球したい。

時代や環境は大転換期にある。この変革期、いよいよ我々診断士の出番である。我々ほどの国家資格保有者にもできないことができる。すなわち、中小企業支援のため、弁護士、公認会計士、税理士、技術士、社労士など中小企業経営に何らかの形で関わっている専門家をリードし、コーディネートできる唯一の国家資格ホルダーだからである。

私は中小企業診断協会京都支部のトップとして上記の認識の下、支部会員諸兄の先頭に立ち、地元経済社会、地元の多くの中小企業の活力増進(元気のある企業はもとよりのこと諸事情により元気を喪失していながらも将来に向かって懸命に努力されている企業経営者とそこに働く従業員さん)のためにわが支部活動の先頭に立つことをモットーに毎日の活動に汗を流す決意だ。

京都支部 17年度の行事予定

行事名	開催日等	時間	会場	テーマ等	講師等
理論更新研修1	8月7日	13時～17時	ばるるプラザ	・新しい中小企業の施策 ・ITタグ普及による中小企業への影響と対応	今嵐・藤原
理論更新研修2	10月2日	13時～17時	ばるるプラザ	・新しい中小企業の施策 ・個人情報保護法と中小企業	坂口・成岡
実務能力研修1	9月3日～4日	10時～17時 (両日共)	ハートピア	企業再生のためのコンサルティング	西河・岡原
実務能力研修2	9月17日～18日	10時～17時 (両日共)	ハートピア	経営ノウハウと資本の共生による多店舗化	鳥井・荒井
診断実務研修	未定	未定	未定	診断士として必要な経営戦略、財務、労務知識	安田・岸田 山崎
支部会員研修	11月26日	13時～17時	池坊学園 (予定)	・新会社法と財務への視点 ・間違いだらけの経営分析・財務分析 ・M&Aを進める際の視点・論点 ・農業における管理会計、監査のポイント	安田・上田 他2名 (折衝中)
経営革新研究会	年10回	18時30分～20時	支部事務所	自由(その都度選定)	(村上)
調査研究事業	7月1日～ 12月31日	適宜	適宜	農業法人の取組の現状と課題を明らかにする	(山崎)
IT研究会	年5回	10時～13時	支部事務所	伝統芸能のデータベース化	(中路)
経営品質研究会	年7回	18時～20時	支部事務所	経営品質向上の手順完成	(松野)
個人情報保護研究会	年10回	18時～20時	支部事務所	個人情報保護法に対応するための診断士向け指導マニュアルを作成する	(山崎)
ビジネスパートナー交流会	2月23日～24日	10時～17時	国立京都国際会館	ビジネスパートナーの交流、開発をめざす	(藤井)
近畿ブロック事例研究発表会	10月14日	13時30分～ 15時30分	兵庫県民ホール	近畿7支部の経営革新事例発表会	(安田) (玉垣)
診断京都発行	年3回発行			夏季、秋季、新年各号	(山崎)
HP更新活動	随時更新			内外に向けての情報発信	(坂本)

※講師等は敬称略、()内は理事会内の担当責任者。実際の企画メンバーではありません。

事業・業務名	事業業務内容	担当役員
【総務】		
事務所運営・管理	事務所運営と管理実務	○松田、中村
個人情報保護	支部業務関連の個人情報保護	○玉垣、中村
議事録作成	総会、理事会等の議事録を作成	○村上、中村
会員管理	会員にかかる実務管理	○松田
会計	会計実務全般を担当	○上田、西河
会員交流会	交流会を企画・組織する	○松野、杉原、成岡、山脇
組織率向上	会員の増強をはかる	○玉垣、安田
【研修】		
登録更新研修	事務所運営と管理実務	○松田、中村
経営革新支援研究会	支部業務関連の個人情報保護	○玉垣、中村
診断実務研修	総会、理事会等の議事録を作成	○村上、中村
支部会員研修	会員にかかる実務管理	○松田
【対外事業】		
マスター研究事業	本部助成事業。本年は農業経営支援の研究	○山崎、西河、上島
産学公連携	産学公の連携を探り推進する	○上島、杉原、鳥井、中川、中村、藤井
金融機関連携	金融機関との連携を図り新たな事業開発を目指す	○中村、杉原
大学関係連携	大学との連携を具体的に推進する	○中村、藤原、辻、杉原、上島
【広報】		
機関誌発行	内外に向かっての情報発信、年3回の発行	○山崎、村上、中路、成岡、坂本
HP更新	支部HPのタイムリーな更新を担当する	○坂本、山脇
無料相談会	ビジネスパートナー交流会等での無料相談会準備	○藤井・上田
会員意識・行動調査	会員のニーズを把握するための調査を担当する	○松田、辻、村上
【分科会研究会】		
IT研究会	伝統芸能のデータベース化を目指す研究、取り組み	○中路
経営品質研究会	経営品質向上の手順完成を目指す取り組み	○松野、辻
個人情報保護研究会	個人情報保護法に対応するための診断士向け指導マニュアルを作成する	○山崎、藤原、中路
新規開設		
近畿ブロック連絡会	近畿ブロックとの連絡会に関する業務	○玉垣、中川、中村
近畿ブロック事例発表会	近畿ブロック経営革新事例発表会を準備する	○安田、藤井、西河
その他新機軸	あたらしい活動分野を探る	○成岡

○は役員としての責任者 一部の役員に関しては役割分担が未定の部分があります。

支部役員紹介

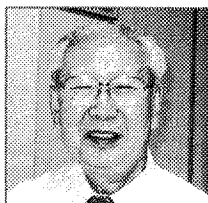
① 名前 ② 担当事業 ③ ひとこと

副支部長

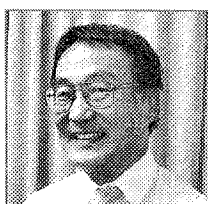


- ① 安田 徹
- ② 近畿ブロック経営支援事例発表会
- ③ 支部長を降りても支部を支える情熱は変わりません

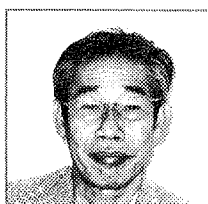
常任理事



- ① 岸田 道彦
- ② 協同組合京都府中小企業診断士会
- ③ 中小企業診断士の社会的地位の向上が重要。



- ① 山崎 忠夫
- ② 調査研究事業（農業）、機関誌発行、個人情報研究会
- ③ がんばります。とくに新分野開拓（農業支援）



- ① 松田幸之助
- ② 総務部門、事務所運営管理
- ③ 支部の活性化のために事務所の活用を!

理事

- ① 上島 政樹
- ② 産学公連携（機構）、大学連携

- ① 坂本 淳
- ② 機関誌発行、支部ホームページ
- ③ 支部内外に対しての効果的な情報提供を目指しています。

- ① 杉原 潔
- ③ 未来を夢見て中小企業診断士になりました。80歳まで現役で頑張りたいと思っています。

- ① 辻 一幸
- ② 診断士更新研修、大学連携、経営品質研究会
- ③ 企業内診断士の診断協会への参画に努めます。

- ① 辻井 功
- ③ 中小企業診断士の制度が新しくなりました。新制度にふさわしい診断士でありたい。

- ① 鳥井 浩三
- ② 診断士登録更新研修、産学公連携
- ③ 診断士の今日的役割を再度考えたい。

- ① 成岡 秀夫
- ② 新機軸（内容はこれから詰めます）、機関誌発行、会員交流会
- ③ 支部が新しい方向性を持てるよう頑張ります。

- ① 中川普巳重
- ② 産学公連携、近畿ブロック事務連絡会
- ③ 少しでもお役に立てるようがんばります!

常任理事



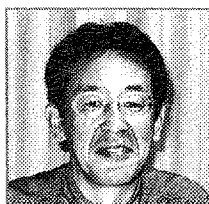
- ① 村上 薫
- ② 診断士登録更新研修（理論・実務）、経営革新支援研究会
- ③ 診断士の範囲の拡大を少しずつ広めましょう。



- ① 山脇 康彦
- ② 会員交流会、新規研究会・分科会
- ③ 京都支部の運営革新に貢献していきたい。



- ① 西河 豊
- ② 調査研究事業、診断実務研修、診断士登録更新研修（実務）
- ③ 支部活性化の年!



- ① 上田 清
- ② 総務（会計担当）、会員研修（支部研修）、無料相談会
- ③ 診断士の知名度向上に尽力したいと思います。

理事

- ① 中路 悦雄
- ② IT研究会
- ③ 伝統産業のITによる活性化を地道に研究しています。

- ① 中村 久吉
- ② 大学連携、金融機関連携
- ③ 時代のキーワードは連携。21世紀の文化です。

- ① 藤井 明登
- ② ビジネスパートナー交流会、診断実務研修、産学公連携
- ③ 微力ながら頑張ります!!

- ① 藤原 正樹
- ② 大学関係連携、IT研究会、個人情報保護研究
- ③ 企業内の身ですので、十分な活動は出来ないと思いますがよろしくをお願いします。

- ① 松野 修典
- ② 会員交流会、診断士登録更新研修、会員研修、調査研究事業
- ③ 顧客主導社会に適応する経営革新の支援を理念にしています。

- ① 山岡 正勝

監事

泉 博 山田順一郎

相談役

木津 要三 品川弥太男

～ついでに協会・診断士も斬る～

1. 診断士制度と現状のギャップ

当初は「公的な中小企業指導事業に従事するもの」として登録制度で発足し、公務員や経営の専門家として税理士等が登録し、試験制度で受験したが、やがて民間受験者の増加に伴い、企業内に所属する診断士が多数を占めるに至りました。当然の結果として、公的診断業務に従事する診断士は、ごく一部に限られました。企業内の診断士は、経営診断をするために受験したというより、経営に関する知識の習得を客観的に証明するものとして、また勉強の目標として資格取得を目指したことが多いと考えられます。

しかし、平成12年の中小企業支援法施行から、指導から支援にかわり「中小企業経営の診断及び助言の業務を行う者」と位置づけられ、民間経営コンサルタントであることが明示されました。この間に、個々の診断士はどのような思わくで受験したかはまちまちであり、公的診断業務の担当を目指した人は少ないと思われます。国の制度としての趣旨と受験者の思わくにこれほどギャップのある国家資格は他にないでしょう。

2. 新制度の問題点

今回の制度見直しでは、受験から登録までのことはともかく、5年間で診断実務を30日(当初案60日)以上という更新要件が課されることになりました。つまり、中小企業診断士の位置づけ「・診断の業務を行う者」が厳密に適用されるようになりました。審議会や中小企業庁としては本来の姿だというでしょう。しかし、長年に亘って企業内診断士が多数を占めてきたことは周知の事実です。

協会の会員としては多額の会費を払い続けて突然の制度見直し、やむなく休止、退会ということになれば、裏切られたという気持ちにもなるでしょう。そんな馬鹿な、責任者出てこい!という声が聞こえてきそうですが、この両者のギャップの顛末は、誰に責任があるのでしょうか。資格を創って、必要以上に合格者を輩出した中小企業庁か、会員の現状を知っていながら見直し案をすんなり受け入れた協会本部か、診断をしないのに受験した個々の診断士か。この議論をすると多分、堂々巡りをするだけで、決まったものは仕方ないというのが最後の結論になるでしょう。

実務要件30日の中身については、弾力的運用を含めてこれからつめて行くと言うことですが、これで診断士の質の向上がどの程度実現するか甚だ疑問です。数を増やして競争原理に任せて有能な診断士が生き残ればそれこそが質の向上であり、時流に合っているのではないのでしょうか。

3. あるべき診断士のすがた

制度見直しのきっかけとして「診断士は玉石混淆でその差がひどすぎる」という外部の評価があったようです。

これは独立診断士に対する評価ではないかと思えます。

そういわれた私たちも冷静に反省する必要があるでしょう。得意分野でないのに安請け合いしなかったか、業界の下調もせずに診断にのぞまなかったか、自己の診断書を再評価したか、と考えると問題がなかったとは言えないように思えます。見直しの視点のなかで「診断士の質と信頼性の確保・向上」と、なんと悔しいことを言われているのでしょうか。

理想的な診断士像というものはないと思えます。要は、中小企業の基本的な経営診断ができることと、自分の得意の分野は誰にも負けないという気持ちがあればよいと思えます。審議会の「制度の在り方」のなかで、再生支援やリレーションシップバンキング対策を例示していますが、これはすべての診断士に求められるものではないと考えます。

4. 中小企業庁、本部、支部、診断士の役割

もう一つ、制度見直しの背景に受験者の数が増加していることがあります。これに気をよくして、より質の高い診断士制度の構築を考えたものと思えます。それなら、企業庁はそれにふさわしい診断士の業域を考えたらどうなんだ、と言いたいところですが、規制緩和の流れの中で診断士に特定した業域の確保は難しいようです。

しかし、リレーションシップバンキング、再生支援協議会、産廃事業等、中小企業診断士の活用について着実に制度の中に組み込む努力はしてくれています。全国的に展開している会計普及セミナーでも講師は診断士に限定し、昨年に引き続き今年も実施されます。こうした時に、企業庁も各省庁せめぎ合いの中で努力をしてくれているという評価をして、協会本部、支部、診断士が機動的に対応し、よい成果を上げる努力をしましょう。そのためにも本部・支部の活動を機動的に会員に広報でき、会員の意見を集約できるMLの活用はよいことです。

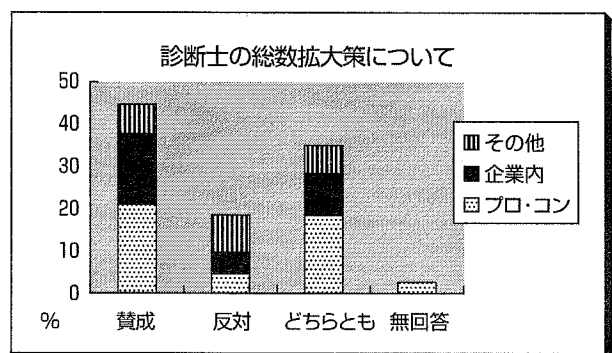
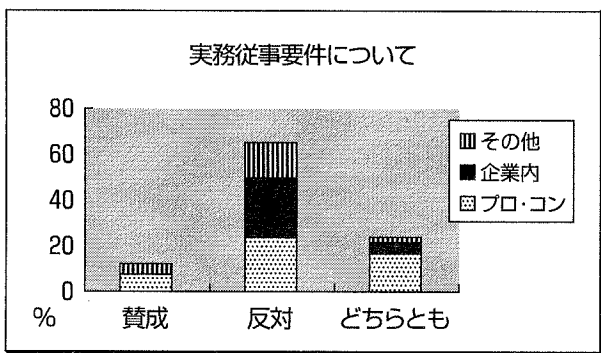
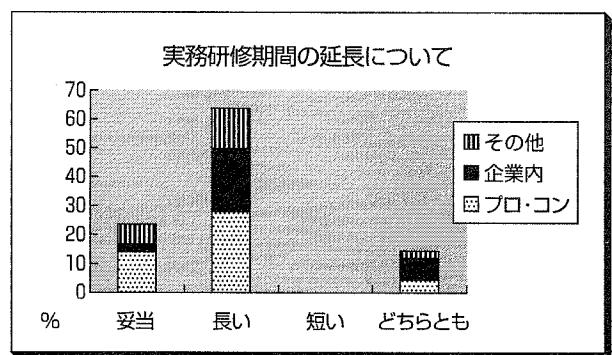
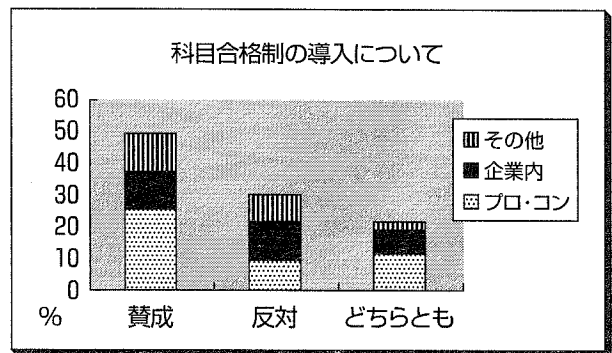
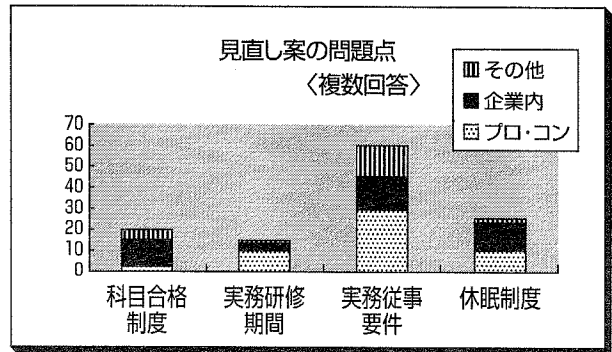
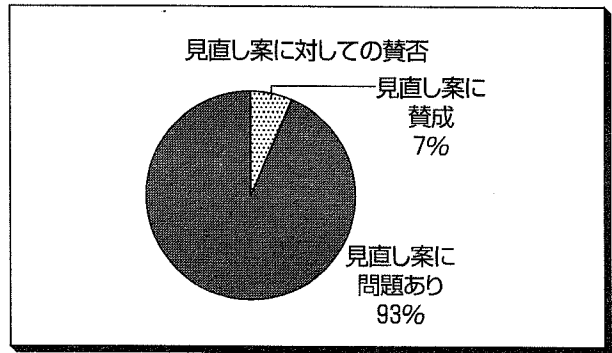
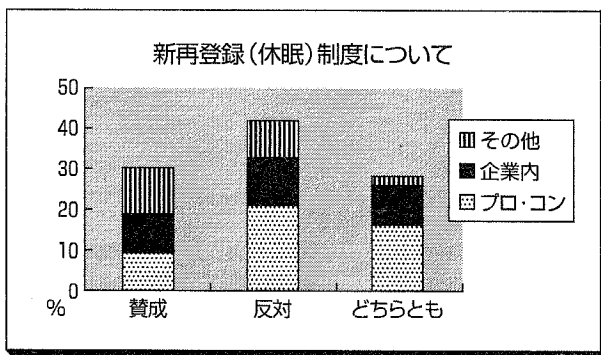


京都支部 「診断士制度の見直し案」 アンケート

以下は、平成17年5月に京都支部でとりまとめました「診断士制度の見直し案（原案）」に対するアンケートの結果概要です。質問と集計は京都支部ホームページを参照して下さい。
<http://www.joho-kyoto.or.jp/~rmckkyoto/>

【要約】

- アンケート配布121中43人の回答（回答率35.5%）。
- 回答者内訳はプロコンサルタント20人、企業内診断士13人、どちらともいえない7人、休業中3人。
- 制度の見直し案に対し、93%の人が「問題あり」と回答。
- 問題点として最も多かったのは「実務従事要件が60日／5年」で、65%の人が「長すぎる」と答えている。
- 「科目別合格制の導入」は49%の人が賛成している。反対は30%。
- 「診断士の総数拡大」については賛成44%。
- 「新再登録制度（休眠制度）」については賛成者が30%、反対が42%となっている。



座談会 [新理事放談]

(司会) それではまず、自己紹介をお願いします。レディーファーストで中川さんから。



〈中川〉京都リサーチパークのEBSセンターで、社内ベンチャーの支援、第二創業支援、起業家塾、新規事業のサポート、個別プランのブラッシュアップなど、思いっきりコンサルしています(笑)。診断士と日常の業務が思い切り結びついていますね。

〈中村〉診断士は16年前に商業部門で資格取得しました。大阪は過当競争で情報部門がおいしく見えて(笑)、情報部門を取りました。当時は企業内診断士の典型で、せいぜい役立ったのはラインの管理くらい。ITCで玉垣さんと縁が出来て京都支部に転入しました。

〈藤井〉平成11年度の商業部門の登録です。二次試験で苦勞し、中小企業対策を相当勉強しました。合格後受験機関で教壇に立ちました。金融機関に勤めていたが破綻し、転職にあたって、診断士の資格を持っていたので、現在の長岡商工会に認定採用されました。

〈成岡〉平成12年度情報の登録です。32歳まで合繊メーカーの技術屋でしたが、義兄が社長の出版と印刷会社に転籍。パブルの崩壊で300人の従業員と100億の売上の出版社を清算しました。経営が何も分かっていないとそれから勉強して、たまたま合格しました。

〈辻〉中小企業事業団に1年間いて昭和63年に資格を取りました。当時は行政の商工部に所属して商店の診断業務などを担当しました。その後異動が頻繁にあり、現在は産業21のあきないサポートグループに所属していて、小売商業を担当しています。

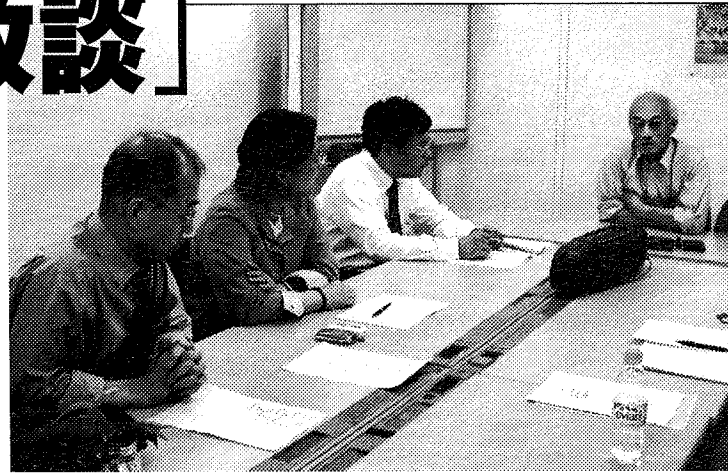
(司会) 診断士になって、京都支部に入られて、支部はどんな感じでした?

〈中川〉福岡県では理事でしたけれど、福岡は支部の中に株式会社を作って非常に紛糾しました。京都は支部と組合が公に別組織を作った初めてのケースではないですか? 派閥が出来るほど大きな組織でもないし、京都は非常にうまくバランスを取っていると思います。

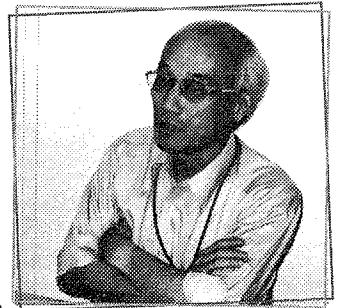
〈藤井〉実際に動いている人の人数を見ると派閥がどうこうというレベルではないと思います。ずっと京都支部にいますがアットホームな雰囲気があります。まず支部に所属して次に組合で仕事をしていただく。組合に発注される仕事が減っているのが気がかりですね。

〈中村〉大阪には診断士会という別組織があります。大阪に比べて診断士としての仕事の絶対量が少ないのに、京都のよさは二つの組織がある程度融合し、かつ棲み分けしてうまく機能していると思いますよ。

〈辻〉昭和63年の4月から京都支部に所属しています。当時は黒崎先生が支部長でした。かなり古手です(笑)。仲良く懇親という感じが強かったですが、経営革新研究会をはじめ、研究会が多くあり、を活発にやっていました。



〈成岡〉仕事の関係で大阪支部にも、東京支部にも所属しましたが、規模が全然違いますね。毎日、どこかで何かの勉強会をやっていますよ。京都の規模では支部が何かやってくれるんだ、ということではなく、自分で積極的に関わらないとダメですね。



(司会) 今回新しく理事になられて、何か今までと違うものはありますか?

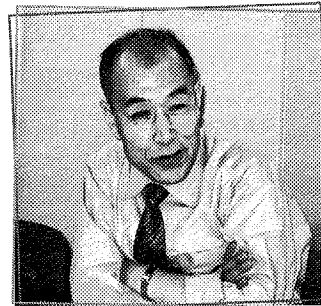
〈全員〉まだ、理事会も1回ですから、分かりませんね。これからですよ!

〈藤井〉長岡の商工会の会員は1200件あって、確かに何もやってくれないという意見もあります。支部も同じですが、試験に通ったんだから、貪欲に自分から一歩踏み出して、積極的に支部と関わって欲しいですね。時間がどうこう言うのは言い訳ですよ。

〈辻〉仕事柄、逆に診断士の先生方を迎える立場でもありますが、まだまだ対外的なアピールが弱いと一層感じています。それと、自分もそうですが、企業内診断士の方にもっと支部のほうを向いて欲しいですね。

〈中川〉意思のある人はいいいけど、保険のように思っただけで知的欲求レベルで満足して止まっている人達に対して「場」を作るのが支部の役割ではないでしょうか? 少し腰が引けている人は結構多いと思いますよ。

〈成岡〉何かチャンスがあったら一歩踏み出したいと思っている人は多いと思いますよ。合格して一服してしまったり、次はどうしたらいいんだっけ? という人には、どんどん情報を流して、広報を積極的にすればいいと思います。



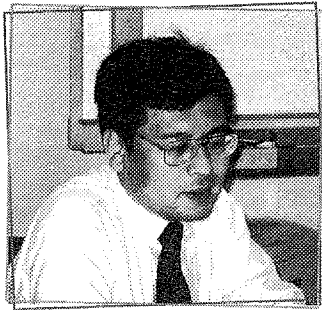
〈中村〉意外と診断士が社会に知られていないと痛感しましたね。先日の「大学発ベンチャー」の研究事業で感じました。独占業務がないからかもしれないませんが、大企業の人しか診断士という資格を認知していないのでは?

〈司会〉京都支部の会員へのメッセージがあればお願いします。

〈中村〉「いい支部に脱皮するから来てね」でしょうか(笑)。金融機関や大学校卒の人が比較的支部に加入していませんから、京都支部は何か魅力があるという意識を持ってもらいたいですね。そのために、下働きを一生懸命するつもりです。

〈中川〉全体の底上げも大事ですが、基礎体力がないと何もできないので、まず、それをつけることが重要ですね。やはり支部会員数の増加が第一でしょうか?企業内診断士の方への「場」の提供が出来るといいと思っています。

〈藤井〉時間の事を厳しく言えば、自分の仕事にどれだけ時間をかけるかが大事ですね。この資格は貪欲に活用しないと死んでしまいますから。土日に稼いでみようとか、土日にネットワークを作ってみようとか、想いがあれば出来ますよ。



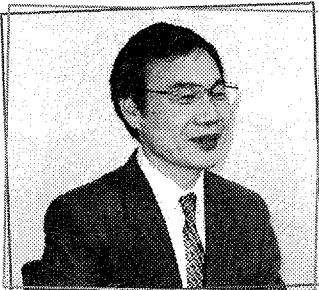
〈成岡〉この広報誌にもどんどん「人」を載せたいと思います。そしたら、更新研修に来られても何となく見た人がいるなあ、という感じになると思います。所詮ビジネスの基本は「人」のつながりですから、それを少しでも触媒になるようにと思っています。

〈辻〉府職員の現役最後の会員です。企業内診断士にもっと加入して欲しいと思っていますが、なかなか促進できませんね。メリットの云々以前に支部に加入したらどうなるという支部からのPRが足りないと思います。もっと積極的にしたらいいと思います。

〈司会〉玉垣新体制になって総会後の懇親会の雰囲気などは従来と全然違うように感じましたが、期待することはどんなことですか?

〈成岡〉過去のことは知りませんが、誰が何をどういう風に行っているんだということが、全然分からなかったですね。今は、情報の発信頻度も格段に増えて、非常によく見えてくるようになったと思っています。情報の共有は重要ですね。

〈中村〉支部といっても診断士としてのビジネスがあるわけで、従来はなかなか皆さん支部の活動に時間が割けなかったのでは。そういう意味では非常にいい人材をトップに迎えたので、組織としてやるべきことがきちっと出来るかと期待しています。



〈辻〉随分と組織的な対応に変わってきたと思います。以前は個人の集まりの感じでした。社団法人なのだから組織で動くのが当然だと思います。昔はもっとサロニックな雰囲気でした。でも、フレンドリーな関係は必要ですね。

〈中川〉企業内診断士の方には支部が唯一の情報源ですよ。誰かが仕事を取ってきて、皆で連携して事業をやっていけばいいと思います。「場」の提供ですよ。単なる「お勉強会」では実質的ではないですよ。そういうことが出来るのではと、期待しています。

〈藤井〉我々理事にもヤル気のある部門に手を挙げろ方式でしょ。支部の経営資源の集中配分も必要かと思いますが、50人くらいになったら成り立たなくなるので、まず有意義な情報発信の場を設けること。診断京都の発行頻度も増やすことですね。

〈司会〉最後に京都支部の診断士として今後どうしていきたいと思っていますか?

〈藤井〉地域中小企業支援センターがシニアアドバイザー制度に変わります。行政の方向もサバイバルになりますから、常にアンテナを高くして行きたいと思います。何しろ人生の方向転換を決定的にした資格ですから。「資格」が「資格」にならないようにしたいと思います。

〈中村〉昨年度やった調査研究事業をもっと「京都ブランド」を打ち出して進めていけばいいと思います。きちんと成果物を出してちゃんと利益が上がるものを作っていけばいいですよ。診断士はテリトリーが広いですから。

〈中川〉京都発の花火が上がればいいですね。何と言っても世界ブランドですから。京都ブランドはバリューがあるから東京からのベンチャー資本も来ますよ。京都支部がそういう役割を担えばいいですね。

〈成岡〉京都は閉鎖的な面があってコネクションも大事です。京都観光は「カネとコネ」があると格段に面白いです。我々の広いコネクションを最大限活用した「連携」を進めたいですね。これだけのスキルとネットワークを持った人の集まりですから。

〈辻〉自分のタイプとして地道にやっていくことでしょうか。それと学会などに所属してもっと勉強することが必要です。中小企業の困っていることをサポートするのだから、その時に診断士の人と支部や協会が頭に自然と浮かぶようになりたいですね。

〈司会〉本日はどうも有難うございました。初の座談会としてはまあ、何とかあったような気がします(笑)。

会員の書籍紹介

図解
よくわかる
これからの
外注管理

「図解」なるほど! これぞわかった
よくわかる
これからの
外注管理

「図解」の財務体質から徹底し、「図解」の経営体質をつくり上げるための、
これからの外注管理のノウハウ

坂田 慎一

坂田 慎一 著
同文館出版刊

「経営品質診断マニュアル」のお知らせ

京都支部経営品質研究会ではこの度「経営品質診断マニュアル」(A4版86頁360KB.pdf)を完成しました。近年、産業界において経営品質の重要性の認識は高まっており、世界60カ国以上が経営品質の導入を図っています。我が国でも1995年に日本経営品質賞が設けられて以来現在までに多くの大企業や中小企業が受賞されています。

このような状況を踏まえて、平成15年7月より京都支部において経営品質研究会活動を始め平成17年6月まで延べ17回の研究会を開催して纏めたものです。

内容は中小企業診断士向け経営品質の診断・支援に役立つことを目的としており、「評価ワークシート」及び「ワークシート運用の手引き」からなっています。前者は企業の品質水準を把握しどのように改善して行くか事例を含めた手法を示しており、後者はワークシートの記述方法や使い方について解説を加えていますので、企業診断・支援に際して即刻役立つような構成になっています。

京都支部会員に限りマニュアルご希望の方は下記メールアドレスまでご連絡下されれば添付ファイルにて送付申し上げます。なお、添付ファイル以外でのお取り扱いは致しかねますのでご了承ください。

資料ご請求

ykpc3@inbox.kyoto-net.or.jp
京都支部経営品質研究会木津宛

資料内容のお問合せ

s-fujiwara@ann.hi-ho.ne.jp
京都支部経営品質研究会藤原宛

以上

調査研究事業スタート

平成17年度の「調査研究事業」は「農業経営の支援」で決まりました。メインテーマは「農業法人の取組みとその課題」として、新しい日本農業の担い手の先頭に立つ「農業法人」の経営課題と更なる発展の展望を診断士の目線で検証し、提言することです。メンバーは山崎、西河、松野、上島、秋田の「5人のサムライ」。

何しろ何もかもが初めての手探りでスタート。意欲だけは充分で、既に2回の打合せを終え、農業団体にも果敢(?)にアタック。がんばりまあ〜す。

IT研究会

IT研究会では2001年より、ITを利用した伝統産業の活性化を研究してきました。西陣織を代表とする京都の伝統産業技術を要素分解してデータベース化し、インターネット上でB to Bのビジネスモデルを目指すというもので、基本となるIPO分析(Input Process Output)まで出来上がりました。京都産業21のような公的機関にもプレゼンを行い、このビジネスモデルが成立することを目標としていますが、肝心の伝統産業のなかから賛同していただく企業が現れず、研究レベルに終わっています。今年度は、他の公的機関や異業種交流組織などに働きかける活動を検討しています。

17年度中小企業経営革新支援研究会

回数	月日	テーマ	発表者(所属)	参加者
217	4月13日	ブログ… なぜはやるのか? 何ができるのか?	(株)MyBS代表 河合 良晃	11
218	5月11日	21世紀を開く感性 哲学輝いて生きる	品川 弥太男 (支部会員)	8
219	6月15日	商法改正と最近 の会計業界	黒崎 徳之助 (支部会員)	12
220	7月13日	創業・第二創業と 公庫融資	国民生活金融公庫 西陣支店課長 金子 吉孝 次長 大場 正規	15

会員の異動

●入会者

福田 真一
森山 敦史(大阪支部より)
杉村麻記子(大阪支部より)
小西 正伸(愛知支部より)
(平成17年度 転・入会者)
[敬称略]

●転出者

安田 稔行
船越 昇
浜崎 鎮夫
西口 洋一(死亡)
石山 勝浩(愛媛支部へ)
大西 直二(東京中央支部へ)

編集後記

25年ぶり(?)に「機関誌発行」のお仕事をさせていただいて、目を白黒させながら、でも、新鮮な気持ちで取組めました。でも、本当にちょっとしたことで大変な努力がいることが分かって今まで「機関誌発行」に携われた皆さんのご苦労が良く分かりました。ふうー!(山崎)

今回、初めて支部の機関誌なるものの制作に携わり、初の試みとして「座談会」や、新体制の事業や理事の紹介、診断士制度の特集など、多彩な内容になった。忙しい時間を割いてご協力いただいた編集員の方々にお礼を申し上げます。次号以降も、「人」を中心の内容でいきたいと思っています。(成岡)

「デジタルの時代、もう印刷物の機関誌なんていらないのでは」という意見もあります。でも実際この「診断京都」の編集に携わってみると、いろんな人とのコミュニケーションが発生してきて、ネットとは違った情報の価値がつかれそうな気がします。(あ)

「診断士制度を斬る…」と「その緊急アンケート実施…」は膨大な量になるので、字数を特にアンケートの方は減らさせていただきました。読んでもらうのが目的で、しかし、どちらも全文は支部HPに掲載してもらうことにしました。ご覧ください。(村上)

情報を人に優しい、読みやすい形に加工するのが印刷屋の使命です。診断京都も発行する以上、内容の充実と読みやすさを追求したいと思っています。不況指定業種の「印刷業」です。価格破壊が止まらない中、情報加工産業としての存在価値を高めたいと思っています。(じい)

診断京都

No.79

2005年8月1日発行

社団法人中小企業診断協会京都支部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東
京都産業会館内

TEL (075) 213-7980

FAX (075) 213-7981

メール smecakyo@mail.joho-kyoto.or.jp

ホームページ <http://www.joho-kyoto.or.jp/~rmckkyoto>

印刷所 (株)大栄堂印刷社 TEL (075) 314-3111

FAX (075) 314-3122